

主の祈り (93-5A)

天にまします われらの父よ
ねがわくは、み名をあがめさせたまえ
み国をきたらせたまえ
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ
われらの日用の糧（かて）を、今日もあたえたまえ
われらに罪をおかすものを、われらがゆるすごとく
われらの罪をもゆるしたまえ
われらをこころみにあわせず、悪よりすくいだしたまえ
国と ちからと さかえとは、かぎりなく、
なんじのものなればなり

アーメン

石巻栄光教会宣教基本方針

石巻栄光教会は、主なる神と出会うイエス・キリストの体です。神様が愛している一人一人のかけがえのなさを思い出し、この世界を神様が大切にしていることを思い出す場所です。石巻栄光教会は、希望を生み出します。

私たちは、この社会の現実の中で生きています。教会の中だけでの満足にとどまらず、社会に生きる人々の痛みや苦しき、あるいは楽しみを共にしていくこと、そして、悩みや不安を分け合って喜びに変えていく教会になることを願います。

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。



日本キリスト教団 石巻栄光教会

〒986-0854 石巻市大街道北2丁目12-3

電話/FAX: 0225-22-4090

ホームページ: <http://tohoku.uccj.jp/i-eikou>

メール: i-eikou@tohoku.uccj.jp

振替口座: 02280-8-2810

教会創立: 1887年9月25日

集会案内

聖日礼拝	毎週日曜日	午前10:30
早朝礼拝	毎週日曜日	午前7:30
交わりの会	毎週日曜日	礼拝後
み言葉と祈りの会	毎週水曜日	午後7:30

2025年度標語 『これは、人の意志や努力ではなく、
神の憐れみによるものです』

- ◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
- ◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
- ◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
- ◎ 平和を創り出すために働きましょう。

週報別冊

2026年3月29日号

1. 教会宛に、以下の通信が届いています。

【日本基督教団石巻栄光教会関係】

- 「石巻学プラスワン」：4月13日（土）に石巻市立町にある「ラ・ストラダ」で、川上牧師が講演をします。そのチラシを頂きました。
- 「イースターカード」（日本国際ギデオン協会三陸支部）：手書きのメッセージと共に、カードをお送り頂きました。
- 「全国同信伝道会ニュースレター」：「資金難や高齢化で決断できずにいた」教会の老朽化対策工事を巡って、教会を子ども・青年たちに開放したことで、「この子たちと共に歩みたい」と、開始の決断ができた報告を記す「第三の居場所」（旭川星光伝道所 齋藤麻実さん）等が掲載されています。

【日本基督教団・東北教区関係】

- 「Glory to God」（宮城学院）：宮城北地区の関係学校からの通信です。「創立120周年記念事業のための献金依頼」を同封いただきました。
- 「小高・浪江伝道を共に！」（小高・浪江伝道所宣教支援会）：ニュースレター第二号が出来た、ということで「各教会・伝道所にお集まりの方々に1部ずつ届くよう、ご配慮いただけますでしょうか」と依頼を頂きました。

2. 牧師動静

3月23日（月）

午前中、宮城刑務所で教誨活動をし、お昼から仙台キリスト教連合の世話人会に出席し、午後、仙台YMCAの常議員会に出席し、夜、「フォーサイス」読書会をオンラインで主宰しました。

3月24日（火）

日中、教会で執務し、夕方、ネパールからの留学生の引っ越しをお手伝いし、夜、東北ヘルプ理事会を主宰しました。

3月25日（水）

午前中、渡波の「小金浜おむすび村」・震災遺構「女川交番」・波板の「帰って来た小舟」・雄勝伝承産業会館・雄勝ローズファクトリーガーデン・大川小学校を訪問し、午後、十三浜で「キリシタン読書会」を主宰し、夜、祈祷会を主宰しました。

3月26日（木）

日中、宮城県教誨師会理事会に出席しました。

3月27日（金）

午前中、日本基督教団東北教区教誨師会に出席し、夜、石巻広域ワイズメンズクラブの役員会に出席しました。

3月28日（土）

お客様を迎えて石巻を案内しました。

- 先週、無事に「東北ヘルプ」ニュースレターが印刷入稿できました。また本日から「福島スタディーツアー」が始まります。被災地での支援活動は、なお続いています。多くの方のお祈りとご支援に、心から感謝を覚えています。

3月30日（月）・31日（火）

福島スタディーツアーに帯同しています。

4月1日（水）

午前中、仙台YMCA入職式に参加し、午後、エマオで執務し、夜、祈祷会を主宰します。

4月2日（木）

午前中、休暇を頂き、午後、福島県キリスト教連絡会放射能問題学習会にオンラインで参加します。

4月3日（金）

日中、仙台と福島市で東北ヘルプの執務をします。

4月4日（土）

仙台YMCA学園の入学式に参加しています。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。上記日程を調整して、お会いしたく存じます。

第三の居場所

齋藤 麻実（旭川星光伝道所）

2017年、私は北海道の旭川星光伝道所に着任しました。そこで直面したのは、冬場に子どもたちが安全に遊べる場所がなく、交通の便も悪いという地域の課題でした。「子どもたちの居場所を作りたい」との思いから、2018年に教会の会堂を開放する「あそびば」をスタートさせました。

「あそびば」のルールは、聖書の話の強要しないこと。「神様」という言葉を使わなくとも、その場にいるだけで「自分は大切にされている」と感じられる場所を目指しています。たこ焼きパーティーなどを通じて子どもたちが集まり始め、次第に地域の方々も差し入れやボランティアで関わってくださるようになりました。またそのつながりから旭川市のひとり親支援事業でのお子さんの預かりが会堂で行われています。

2020年からのコロナ禍、そして2021年に近隣中学校で起きたいじめ・凍死事件の際も、教会は学校に行くことが出来なくなった子どもたちの避難所となりました。家に一人でいるために平日も扉を開け、不登校支援団体とも連携しながら、親子が安心できる居場所を提供し続けました。また、2023年には私たち牧師家族が転居し、空いた牧師館部分を2025年2月から住宅確保が困難なご家

庭に貸し出しています。

会堂の老朽化のために2020年から今後について話し合いを続けていましたが、資金難や高齢化で決断できませんでした。2024年の教会総会の日、「あそびば」の常連である中学生たちが私の不在中に玄関で遊んでいて教会のドアのガラスを割ってしまったのです。彼らは逃げずに謝罪し、拙い言葉で「自分たちにとって教会がいかにか大切な場所か」を語ってくれました。その姿に心を打たれた信徒のみなさんは、「この子たちと共に歩みたい」と工事を決断しました。家でも学校でも怒られることの多い彼らも、今では教会の力仕事を進んで手伝ってくれています。

工事期間中は近隣のイオン旭川春光店のご協力で活動を継続し、それがきっかけで新たな地域団体や高齢者向け体操教室も発足しました。着任当初は静かだった教会が、今では平日になると子どもたちや地域のみなさんで賑わっています。

「学校」でも「家庭」でもないからこそ、できることがある。教会が地域の方々に支えられながら、誰もがふらっと立ち寄れる「第三の居場所」として用いられることを願っています。覚えてお祈りください。